

いわせほっとニュース

<http://www.iwase-hp.jp/> 発行日 2018年3月27日

〔公立岩瀬病院の基本理念〕

患者さん中心の医療を実践し、地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



内視鏡検査中の小橋医師

目 次

◆ ごあいさつ	2	◆ シリーズ チーム医療 ⑩	5
◆ Dr's Cafe 「ヘリコバクターピロリ菌と胃癌」	3	◆ 部署紹介「健診センター」	5
◆ 妊婦さん、授乳中のお母さんへ	4	◆ シリーズ 助産師③	5
◆ 初期臨床研修医の 受入れを行っております	4	◆ 病院用語ナビ『月経困難症』	6
		◆ 健康レシビ	6



ごあいさつ



企業長 伊 東 幸 雄

昨年は、当院にとって大きな節目ともなる年でした。

4月には、産科婦人科、周産期医療の拠点となる南棟がオープンし、この南棟のオープンをもって新病棟建設、そして先の東日本大震災からの復旧・復興事業として取り組んだ外来棟の建替を含め一連の施設設備の整備が完了したところです。この間のご支援に感謝申し上げます。

今後は、この整備された病院施設等の活用を図るとともに地域医療構想を踏まえ、また地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の中核病院として一層その役割が果たせるよう取り組んで参ります。今後どうぞよろしくお願いいたします。



院 長 三 浦 純 一

東日本大震災と原発事故から7年が経過しました。公立岩瀬病院は震災で旧病棟と外来棟が破壊され、一時は診療の提供が困難な時期がありましたが、幸い新しく外来棟を建設し、昨年は周産期の病棟を建設することができました。

市町村をはじめ皆様のご支援があったからこそ、地域医療を守る公立病院として復活できたものと感謝しております。

地域の中核病院として産み育てるところから看取りまで、幅広く皆様のためにより良い医療を提供できるように努力してまいります。

今後も公立岩瀬病院をよろしくお願い申し上げます。



副院長兼看護部長 安 達 恵美子

日頃より、地域の皆様には多大なるご支援を頂き誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

昨年の4月3日に地域から求められ、「産科婦人科・NICU」が開設されまもなく一年が経ちます。これからも「安心して子どもを産み育てることのできる地域づくりのために」地域から選ばれる病院としての役割を果たして行きたいと考えます。今、少子高齢化に伴う医療情勢はとても厳しい状況にあります。住み慣れた地域で過ごすことができるように皆様の健康に携わりお力になれるよう努力して参りたいと思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。



ヘリコバクターピロリ菌と胃癌

ヘリコバクターピロリ菌(ピロリ菌)について、テレビやラジオでその名前を聞いたことがある人は多いと思います。「昔の人は、井戸水や川の水を

飲んで生活していたからピロリ菌に感染している人がたくさんいる」という話を知っている方もいるでしょう。既に除菌したという方もいると思います。

かつての日本において、癌の中で最も死亡率の高いものは胃癌でした。しかし徐々に胃癌の死亡率が減少しています。これはピロリ菌の感染率の減少が深く関わっています。これまでの研究で

- ① ピロリ菌に一度も感染したことが無い人は、胃癌になる可能性が極めて低いこと
- ② ピロリ菌に感染した人は、除菌をすることによって胃癌になる可能性が低下すること
- ③ 除菌をする時期が早ければ早いほど胃癌になる可能性が低下すること

がわかっています。さらに健康診断などでしっかり胃カメラを受けることにより、早期の段階で胃癌を発見・治療することが可能です。今や胃癌で命を落

とすことは、もったいない時代になりつつあるわけです。



話は冒頭に戻りますが、現在の日本では上下水道の整備などにより、生活用水からのピロリ菌感染はまれとされています。では、どこから感染するのでしょうか？答えは感染者の胃からです。最も多い経路が母子感染、次に父子感染であることがわかっています。そこで、子どもに感染する前に除菌をしてみれば、次の世代への感染の大部分を防げるだろうと考えられているのです。

除菌薬についても、便利で有効な薬が開発され除菌の成功率が上がっています。将来的には、胃癌が「対策の不要なまれな癌」になる日がくることが期待されています。自分自身が胃癌で命を落とさないのはもちろんのこと、次世代の子ども達が胃癌にならないために、まずは胃カメラを飲んでピロリ菌の有無を確認してみませんか？私も苦しくない胃カメラを提供できるように日々鍛錬しております。



妊婦さん、授乳中のお母さん お薬についてお悩みの方はご相談ください

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 橋本文枝



妊娠中あるいは授乳中に病気にかかってしまった場合、赤ちゃんへの影響が心配で、薬を飲まないで我慢してしまう人は多いのではないのでしょうか。治療せず、病気を長引かせることは、妊娠や育児そのものに悪影響を及ぼしてしまいます。また、慢性疾患で定期的に薬を服用している場合、薬を飲み続けながら妊娠することは困難ではないかと心配され、自己判断で服薬を中止してしまうケースや、妊娠と知らずに薬を服用してしまった場合、赤ちゃんに先天性の奇形が生じるのではないかと大変不安に思い、なかには不必要な中絶手術が行われてしまうケースもあるようです。

当院は、妊娠中・授乳中の薬の使用について悩まれている妊婦さん、授乳中のお母さんからの質問に対応させていただいております。希望される方にはカウンセリングも行っております。

薬の安全性のデータや薬の使用時期、これまでの調査結果などから判断し、どの程度赤ちゃんに影響を及ぼす薬なのかなどをお話しさせていただいております。

日本の医薬品の添付文書には「妊婦禁忌」、「授乳婦禁忌」と記載されている薬がたくさんあります。どんな薬にも副作用があるため、絶対安全な薬というものはありませんが、詳しく調べてみると妊娠中・授乳中であっても服用できる薬は意外とあるものです。妊婦さんや授乳中のお母さん、そして赤ちゃんの健康維持のためにお手伝いさせていただきますので、お気軽にご相談ください。



初期臨床研修医の受入れを行っています



当院は厚生労働省臨床研修指定病院として初期臨床研修医の受入れを行っています。

3月に入り春休みを利用して病院見学に来て下さる医学生さんが多くなりました。見学当日は院内見学をはじめ、三浦院長や大谷副院長による病院紹介や研修内容紹介、各見学希望科の実際の研修の様子などを見学していただいております。

今年度は病院見学14名、病院実習11名の医学生さんが当院に来てくれました。今後も実習先・初期臨床研修先として選ばれる魅力的な病院となるように努力していききたいと思います。

シリーズ チーム医療 ⑬ 『自分の科から見るチーム医療について』

手術室 小林 順一



昨今の治療の進歩に伴い、難易度の高い手術が増加し、手術に使用する機器も高度化・複雑化しています。その中で質の高い医療を提供するため、医師、看護師、臨床工学士、放射線技師、薬剤師などの異なる職種が、患者さんを中心としてひとつのチームとなり治療にあたっています。

手術室においてはチーム医療を向上させるために、各職種が専門性を向上させるだけでなくスタッフ間の連携を深めていく必要があり、看護師はその調整役を担っています。

患者さんの身体や状態情報を共有し、患者さんの安全を確保すると共に合併症予防に留意し、手術が円滑に遂行され早期回復が実現できる様に努めております。

部署紹介《検診センター》

検診センターでは、人間ドック・生活習慣病健診・各種施設検診・特定保健指導・予防接種などを行っております。メンバーは検診部長をはじめ、保健師・看護師・事務職員等13名で構成されています。

人間ドックの目的は、生活習慣病の予防と早期発見です。糖尿病・高血圧・がん・動脈硬化などの多くは自覚症状がないまま進行することが多いです。毎日を心身ともに健康で明るい生活を送るためにも、日ごろの健康管理の目安として、年に1回は人間ドックや検診をぜひおすすめします。

人間ドック等についての質問等がありましたらお気軽にご連絡ください。



シリーズ 助産師 Vol.3

助産師 野内 文恵



当院の産婦人科病棟では、10名の看護師・17名の助産師・2名の看護助手が勤務しており、周産期にあるお母さんとその家族の援助にあたっています。

助産師の業務としては、主に入院が必要な妊婦さんとの関わりや分娩介助、産後のお母さんの授乳や赤ちゃんへの対応をお手伝いすることがメインとなっています。お産の時は、産婦さんの不安に寄り添いながら、自然分娩では陣痛に耐えるお母さんが少しでもいいお産に近づけるように考えてケアにあたるようにしています。無事に赤ちゃんに会えた時のご家族の笑顔が見ることができると、とてもうれしい気持ちになります。

また、初めての我が子の育児に戸惑うお母さんの支えになれるよう、そして安心して退院できるよう入院中の短い期間でできることが何か、先輩の助産師の方々と相談しながら日々看護にあたっています。これからも、患者さんと共に自分も助産師として、成長していければいいと思います。



～「月経困難症」とは～

月経中に起こるお腹の痛み・腰痛などからだの症状や、イライラ・抑うつなどの症状が、日常生活に影響するほど強く出る状態を月経困難症と呼びます。

月経血が子宮の外へスムーズに流れないことや子宮を収縮させる物質が多く作られることにより、子宮が強く収縮して下腹部痛や腰痛などが起こると考えられています。10～20代の若い女性にも多くみられ、また「子宮内膜症」や「子宮筋腫」などの病気が原因となっていることもあります。

明らかな原因となる病気がないか調べ、症状にあわせた治療ができます。月経にともなう症状が辛い時は、がまんしたり、市販の薬を飲み続けたりせず医師に相談することをおすすめします。



健康レシピ

酒粕は栄養の宝箱「鮭の粕汁」



一人分 エネルギー/105kcal 蛋白質/7.5g 脂質/2.9g
炭水化物/10.3g 塩分/1.3g 食物繊維/2.8g

《材 料》(3～4人分)

・塩鮭(切り身)	1切れ(約80g)	・水	大さじ2
・大根	100g	・味噌	大さじ1と2/3
・人参	80g	・塩	少々
・里芋(水煮)	4個(約80g)		
・板こんにゃく	1/4枚		
・青ねぎ	適量		
・だし汁	600ml		
・酒粕(板状)	40g	…お好みで調節してください	

作 り 方

- ① 大根、人参、こんにゃくは長さ4cm幅1cm程度の拍子木切りにし、こんにゃくはさっと湯通ししておく。里芋は半月切りにする。
- ② 塩鮭は4cm程度の一口大に切る。
- ③ 酒粕と大さじ2の水を合わせ、電子レンジ(500w)で2分ほど加熱し柔らかくする。
- ④ 鍋にだし汁と1の野菜と塩鮭を入れて、火にかける。
煮立ったら灰汁を除き、弱火にして柔らかくなるまで煮る。
- ⑤ 火を止め、酒粕を溶かし入れ、再度、弱火で煮る。
- ⑥ 味噌を加えて、煮立ち始めたら火を止める。塩を入れ味を整える。
- ⑦ 器に盛り、刻んだ青ねぎを散らす。



酒粕には、たんぱく質やビタミン類・食物繊維などが豊富に入っています。
また、血管を拡張させるため、血行促進の効果があります。

編集・発行 公立岩瀬病院 広報委員会(広報誌発行部会)

〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地

Tel 0248-75-3111 Fax 0248-73-2417 E-mail koho@iwase-hp.jp